

次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

ブームとは、ある現象が突然、そして急激に盛んになることをいう。二世紀に入ってからすぐの二年間ほど、日本国内は日本語ブームだった。より正確には、何冊かのベストセラーに I を発した「日本語本」の出版ブームであった。もし、本当に日本語ブームであったのなら、つまり、本当に日本語に対する関心が高まって、本当に人々が自分の使う日本語を反省して、本当に自らの日本語力を鍛えようとしたのなら、そろそろ多少なりとも A 成果が表れてもよいころである。

ところが、テレビやラジオや町で見聞きするかぎり、日本人が日本語を理解し運用する能力、ならびにコミュニケーションの能力が高まったとは思えない。せめて人々が自分の用いる日本語に気をつかうようになったかという、その気配もあまり感じられない。読書人口が増えたようも見られない。少なくとも電車のなかでは、高校生や大学生だけでなく大人たちまで携帯メールに没頭し、本を読む人は明らかに減っている。政治家の暴言、妄言、失言はあとをたたく、敬語や慣用句は間違っって使われ、 X な接客マニュアル語は一向に改められない。

多くの人がブームに乗って「日本語本」を買ってはみたけれど、最後まで読み通さなかったか、あるいは、読んで納得したはいいが実行後、世界のかなりの部分が、同年代の仲間との会話、携帯メール、バラエティータレントによるテレビのおしゃべり番組、接客マニュアル語から形づくられているとしたら、それはあまりに狭い。日本語の容量や幅を、何もいまから狭めておくことはない。

大人たちは、まともな日本語が話せないなんて世も末だ、と大げさに嘆いてみせるか、「声を出して泣きたい『娘たちの日本語』と茶化すかのどちらかだ。まともな日本語なるものを本気で若い人に覚えてほしいと思うなら、教えればいいのだ。冗談めかしてごまかそうとせず、きちんと教えなかったこと、手本を示してこなかったこと、覚える手助けをしなかったこと、あるいは、教えられるだけのまともな日本語を実は自分たちが身につけていないことを反省したほうがよい。教わっていないことを、人はできるようにならない。箸の持ち方も算数の九九も、敬語の使い方も車の運転も、私たちはだれかに教えてもらってできるようになった。習って、見て、聞いて、まねて、覚えたい。習うとは、見よう見まねで覚えることであり、見ならうことであり、慣れることなのだ。

若者の日本語に関して言えば、大学生と話をしていると、確かに彼らの日本語の世界がきわめて限られていると感ずることがある。ここで言う日本語の世界とは、日本語を運用するうえで手本とし、ときに借用し、折にふれて参照すべき世界のことである。テレビを見て笑い転げ、友だちとおしゃべりをし、ひっきりなしにメールを送り合い、アルバイト先でマニュアルに則った応対をする彼らの言語コミュニケーションをまるごと否定するつもりはない。しかし、大学生の日本語

に移すことをしなかったのだろう。実行に移すとはすなわち、各々が日本語のコミュニケーション能力の向上をめざして、名文を繰り返し音読したり、幅広い読書をしたり、新しい語句を覚えようと努めたり、間違っって使っていた表現を直したりするというものである。もちろん、頭で理解していても、それを実践し、かつ継続していくのは、何であれ容易なことではない。そうでなければ、「三日坊主」「言うは易く行うは難し」「不言実行」などという言葉も生まれなかつただろう。〈中略〉

老いも若きも、かなりの人々が何となく B 日本語が乱れていると感じ、 C 自分自身の日本語を磨きたいと願い、コミュニケーションのあり方も改善されるべきだと思っっているのは確かなようだ。日本の言語文化の行く末に Y の不安を抱いている人もいるだろう。

日本語は、日本列島に暮らす圧倒的多数の人々にとっての D 第一言語であり、死ぬまで付き合っっていく言語である。しかも、少なからぬ人々にとっては、自在に操ることのできるただ一つの言語でもある。外部の力によって日本人から日本語が奪われることはあるまいが、内部から崩 E カイしていくおそれがないとは言えない。そうならないためにも、日本語への関心が Z 性的のものであつてはならない。

ところで、日本語の乱れというと、決まっって若い人の使う言葉がやり玉にあげられる。「けんもほろろ」を「剣がぼろぼろ」の意味と理

の世界のかなりの部分が、同年代の仲間との会話、携帯メール、バラエティータレントによるテレビのおしゃべり番組、接客マニュアル語から形づくられているとしたら、それはあまりに狭い。日本語の容量や幅を、何もいまから狭めておくことはない。

問一 空欄 I・II に入れるのに最も適当な漢字一字をそれぞれ書け。(各2点)

I II

問二 傍線部(ア)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。(各2点)

- (ア) 崩カイ
① 紹カイ
② 感カイ
③ カイ滅
④ 懲カイ
⑤ 境カイ
(イ) ヒ嘆
① ヒ難
② ヒ哀
③ ヒ免
④ ヒ認
⑤ ヒ判

- (ウ) オク面
- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| オク病 | オク底 | 家オク | 巨オク | 記オク |
- (ア)
- (イ)
- (ウ)

問三 空欄 X、Y、Z に入れるのに最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。(各3点)

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| X | | | | | Y | | | | | Z | | | | |
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 姑息 | 煩雑 | 陳腐 | 卑近 | 軽妙 | 抹 | 面 | 沫 | 片 | 縷 | 期 | 年 | 般 | 過 | 元 |

- X
- Y
- Z

問四 傍線部 A「成果」と筆者が期待するもののうち、適当でないものを、次の中から一つ選べ。(4点)

- 間違っていて使われていた敬語や慣用句が正しく使われるようになった。
- 電車の中でも、以前より本を読む人が増えてきた。
- 接客マニュアル語が改善され、自然なコミュニケーションが行われるようになった。
- 人々が自分の用いる日本語に気をつかうようになった。
- 大人の中にも携帯を使ってメール交換ができる人が増えてきた。

問五 傍線部 B「日本語が乱れている」現象について筆者はどう考えているか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。(5点)

- 日本語の乱れは、誰がみても、世も末という状態にまで達している。
- 日本語の乱れは、若者が言葉の意味を正確に知らずに使っているところから来ている。
- 日本語の乱れは、嘆くだけでなく、そこに必然性があることを知るべきだ。
- 日本語の乱れは、若者の言語生活が狭い世界で行われているところから来ている。
- 日本語の乱れは、「日本語本」の内容を理解していないところから来ている。

問六 傍線部 C「自分自身の日本語を磨く」ために、筆者はどうすればいいと言っているか。筆者の主張と異なるものを、次の中から一つ選べ。(4点)

- アルバイト先の店長や身近な大人たちの間違いを指摘する。
- 日本語の世界を広げるため、幅広く読書をする。
- これまで使ってきた慣用句や敬語を反省し、間違っていたら直す。
- 「日本語本」等にあげられた名文を繰り返し音読する。
- これまで知らなかった新しい語句を意識的に覚える。

問七 傍線部 D「第一言語」とほぼ同じ意味をあらわす言葉を、次の中から一つ選べ。(3点)

- 外国語
- 公用語
- 母語
- 標準語
- 慣用語

問八 傍線部 E「けんもほろろ」と意味が最も近いものを、次の中から一つ選べ。(3点)

- くぎをさす
- 目くじらを立てる
- とりつくしまもない
- 奥歯にものがはさまる
- みるかげもない

問九 筆者は、理想とするコミュニケーションを行うためには、どうすればいいと言っているか。本文中の言葉を用いて、三十五字以内にとめて記せ。なお、句読点等も字数に含めるものとする。(7点)

問十 筆者の主張と異なるものを、次の中から一つ選べ。(5点)

- わたしたちは日本語に対する関心をつねに持ち続けなければいけない。
- 携帯メールに夢中になる若者のことばの世界は狭く限られている。
- 若者のことばの乱れを責めるだけでなく、大人たちも反省すべきだ。
- 「日本語本」はよく売れたが、人々のコミュニケーション能力が高まったとはいえない。
- すべての大人たちは、自分たちが習ってきた日本語を、自信を持って若者に教えるべきだ。